

## 葉山幸嗣先生を偲んで

山 田 久

私が葉山幸嗣先生のお名前を知ったのは、2008年に私と仲間の実教出版から『入門ミクロ経済学』を出版した時でした。そのとき葉山先生はまだ明治大学大学院の院生でした。同書の出版に際して、実教出版社から全編に目を通し、各章末の問題も第三者の目ですべて解答してみる必要があるとの指摘を受け、共同執筆者の明治大学武田巧教授から大学院生の葉山先生をご紹介いただいた次第です。本文の校正や問題の解答をしていただき、その過程を通じて優秀な若手の研究者だという印象を持ちました。ただ直接にお会いしたことはありませんでした。お会いするのはそれから何年も先のことになります。

2010年に同様に『入門マクロ経済学』を出版した際にも、葉山先生に校正のお願いをいたしました。そのときは明治大学の非常勤講師をされていました。その後、縁あって和光大学経済経営学部の教員公募に応募され、経済学科の専任講師として赴任されることになりました。私は葉山先生と経済学科で同僚となる幸運に恵まれ、そこで初めてご本人にお会いすることができました。私にとって、葉山先生は息息と一歳違いのとても若い同僚でしたが、非常に頼りになる優秀な研究者であると同時に教育熱心な教員でもありました。

葉山先生と私には早朝出勤の癖があって、朝7時過ぎにはお互いの研究室に居ることがよくありました。すると決まって研究室の電話が鳴り、彼が訪ねてきました。ほとんどだれもない研究室棟でゆっくりといろいろな話をしたものです。葉山先生からよく尋ねられたのは私の留学時代の話でした。シカゴ大学でのミルトン・フリードマン、ゲーリー・ベッカー、ロバート・ルーカス先生について非常に核心を突いた質問をされたものです。葉山先生の興味の中心は、私が1973年以降のシカゴ大学留学時代に体験したマクロ経済学の大変革についてでした。それはフリードマン先生の自然失業率理論を骨子としたマクロ金融理論の変革やルーカス先生の合理的期待形成論などでした。考えてみれば、これらのことはまだ葉山先生が生まれるか生まれた直後のことなので、彼にとっては全く教科書等でしか知らないことだったのです。教科書でしか名前を知らない、フリードマン、ベッカー、ルーカス先生の授業を体験している私の話に興味を持ってくれたようです。また、ベッカー先生の人的資本論にも大変興味を持っていました。私が渡米前の1970年に日本でベッカー先生から頂いた教科書『*Economic Theory*』は、葉山先生に所望され私の定年退職時に進呈しました。授業で使い古したその本には、ベッカー先生の短い言葉とサインが入っていました。

私が所属するモンペラン協会でのフリードマン、ベッカー、ブッキヤナン先生などシカゴ学派の重鎮経済学者との交流にも興味を示していました。すでに3人も鬼籍に入られています今、お元気なころの様子なども随分と話題にしたものです。これも教科書でしか知らないノーベル経済学賞受賞者を直接知っている私の話に興味があったからでしょう。

これからの研究が大いに期待されていました。ご本人もさぞかし無念な思いであつたろうと思います。私のような老人よりも先に逝くなど、この悲しみは言葉にもなりません。ただただご冥福をお祈りするのみです。